

刊行によせて

「研究所年報」第 21 号をお送りする。今号では、共同研究の最終報告にとりわけ注目してもらいたい。「領有権問題の克服」も「雑の研究」も「企業の社会的責任と市民の社会的関与」も、現代社会にとって、緊急かつ本質的な課題といわれるものばかりだ。その課題に、大学として研究者として、あるいは一個人としてどのように応答してゆくのか。国際学部同僚諸氏の真摯な問いかけと魅力的な方策の提示は広く読まれるべき価値があるものと確信している。また、現在進行中の共同研究やフォーラムでの発表も、前記の研究と同じ本質を共有していて、大きな期待をもって読んでほしい。最後に、わたし自身が関わっている公開セミナーと討論会についても紹介しておきたい。「憲法」に関する公開セミナーは、想像を超える数の聴衆が集まり、単行本化して後も、さらに大きな反響を呼んだ。大学とその外部の社会が、いい意味で枠を超えて問題を共有し深めることができた事例だったように思える。大学はもはや孤立しては存在できないが、それは社会に「言いなり」になるということではない。問題を抱え悩む人たちに手を差し伸べること、それも大学（人）の役割なのかもしれない。そのための奮闘の記録として読まれたなら幸いである。

2018 年 10 月

国際学部附属研究所
所長 高橋源一郎